

吉川美南東口地区開発での「訴えの提起」を再度問う

稲垣 茂行



問 「訴えの提起」はいつ行ったのか。裁判の現状と見通しは。

答 4月30日付けで埼玉地裁越谷支部に訴状を提出し、受理された。しかし、新型コロナウイルスの影響により、裁判期日の指定がされず、今後の見通しは立っていない。

問 重機やコンテナハウス残置に至った原因、理由、経過は。

答 仮換地に対する不満であり、減歩率や位置だと認識。平成30年12月から、事業への反対を表明され、令和元年8月上旬から現地に碎石やコンテナが置かれた。

問 裁判の目的は「碎石」の撤去だが、これを相手側の物であると特定した根拠は。

答 市は、令和元年8月に「碎石」が搬入されたのを確認した。令和2年3月3日の仮処分執行に於いても、裁判所の執行官が認定した。

問 裁判が与える影響及び「和解」は。

答 多くの地権者が早期の事業完了を望んでおり、理解頂けると考える。市議会での意見もあり、本年5月に「和解案」を送った。

感染対策を考慮した避難所の確保と運営、中川の治水対策を

雪田 きよみ



問 市の避難所は、コロナ禍1,800人の収容が可能。昨年の台風19号で避難した人は800人近く、中曽根小には約400人が避難。同規模以上の豪雨水害の発生を予測し、避難所の大幅な増設が必要ではないか。

答 避難所以外でも安全を確保できる場合には、親戚・友人宅等への分散避難を周知している他、民間事業者と調整をしている。

問 避難所難民が発生する可能性は。地域ごとに避難先を決め、数値的な避難計画を立てるべき。

答 地域の自治会・自主防災組織の研修会でそのような意識付けを行えばと思う。

問 中川の浚渫（川底をさうらうこと）について、江戸川河川事務所との交渉の進捗状況は。

答 中川・綾瀬川流域計画書で必要となる掘削は完了しているとお話だった。中川・綾瀬川河川流域改修促進期成同盟会や市長からも毎年築堤の嵩上げの要望をしている。弥生橋から旧市役所付近までの左岸側の樹木の伐採を令和元年度にやっていた。今後とも治水対策として、国の方に要望等していききたい。

SDGs 実践的な取り組みへ「知る」から「動く」の十年へ

岩田 京子



問 SDGs 17の目標は2030年達成を目指す。この十年は「知る」から実際に「動く」ことが大切。目的達成のためには野心的な取り組みが求められ、1つの事業の中で多くの目標、できたら17の目標すべてを意識して取り組むことが重要だが、認識は。

答 新規事業を行う際、目的をはっきりさせて取り組むが、1つの目的だけでなく、2つ、3つと兼ねられないか日頃からも心がけている。

問 住宅改修補助事業があるが、単なる事業者支援の視点だけでなく、気候変動対策のために、エコ住宅改修の視点を取入れたらどうか。

答 当事業は450万円。事業者支援と市民の住宅環境の向上を目的とする。

問 それでは今までと変わらない。様々な目的を兼ねることが大切と言っている。例えば第1弾はエコ住宅改修やSDGsに貢献する改修の募集とし、予算が残った際は第2弾で通常の募集をする等、市民と共にSDGs達成に向けた取り組みを優先する工夫が必要では。

答 エコ化を図ると、受付がどうなるか。周知はするが、現段階では推移を見守り今まで通り。

吉川美南東口道路整備を早急に

飯島 正義



問 吉川美南駅東口周辺地区開発が進んでいます。今後、新栄、栄町地域から吉川美南駅への路線バスの運行、一般車の通行のために道路整備を急いで進める必要があると思います。今後の計画は。

答 バス事業者と市役所から吉川美南駅東口間の路線バス運行について意見交換をしています。具体的なルートやその他、条件についての話には至っていない状況です。

◆買物弱者への積極的な支援を

問 三輪野江、新栄、栄町地区の皆さんから、「お店がつぶれてしまい、何とかしてほしい」との声が寄せられています。市は早急な対応を。

答 地域住民が自発的に行う買物支援の移動手段として活用していただくため、市が軽自動車を購入し貸し出します。また移動販売については、市内のスーパーマーケットにおいて移動販売を行う個人事業主を募集しています。市は、住民主体による互助を基本とし、支え合い、助け合いの地域づくりを推進していきたいと考えています。